

# 花壇づくりワークショップ ニュースレター

Vol. **03**  
令和元年 12月 11日号



日時：令和元年 12月 11日 (水)  
9:00 ~ 12:00  
場所：馬見丘陵公園  
ボランティアハウス  
参加者：24人

9:00 ~ 9:05 全体説明  
9:05 ~ 9:50 宿根草のデザイン講習  
9:50 ~ 10:20 肥料の使い方講習  
10:20 ~ 10:50 腐葉土の作り方講習  
10:50 ~ 11:00 休憩  
11:00 ~ 12:00 ハーバリウムづくり

## 冬期講習会

今年度は冬期の花壇施工は行わず、室内で講習会を行いました。宿根草のデザイン講習では、1・2年草と宿根草の違いを踏まえながら、今までの復習を兼ねて花壇の作り方の流れを学びました。また、前年度のアンケートで要望のあった、肥料の使い方についての講習、公園内の落葉を使って腐葉土を作るなど、花壇づくりに役立つ知識を身に付ける回となりました。質問がいくつも飛び出し、とても有意義な時間になったと思います。

今年で6年目になる花壇づくりワークショップですが、冬の間は植えられる植物が限られてくるのが分かったので、室内で花修景する方法として、公園内で育った植物等を使ってハーバリウムを作成しました。



▲肥料の使い方講習



▲腐葉土の作り方講習



▲ハーバリウムづくり

## 宿根草のデザイン

花サポーター花壇は、1・2年草、宿根草、低木類を組み合わせたボーダー花壇となっています。春のチューリップフェアや秋のフラワーフェスタ等のイベントに合わせて、主に1・2年草の植え替えを行って華やかさを演出していました。1・2年草と違って、宿根草は地上部が枯れても根が残り、数年にわたって花を咲かせます。今回は、宿根草の特徴を考えながらデザインする方法について講義を行いました。

### ◆デザインの流れ◆

#### 現地調査

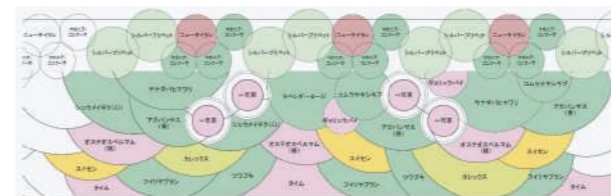
花壇を作る場所の状態を確認します。  
植物について→日照、風、雨、地形、土質（環境条件）など  
人について →見え方、使い方、楽しみ方、安全性、管理のしやすさ など

#### テーマ・イメージ作り

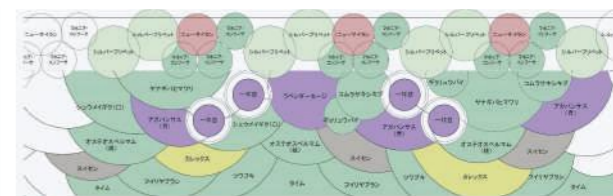
好きな花を無秩序に植えてしまうと、花壇のまとまりがなく乱雑になってしまうので、全体的に調和をとるためにテーマを決めたり、作りたい花壇のイメージを練ります。花壇のテーマとなる「デザインキーワード」、植える花を選ぶための「テーマカラー」、全体的な骨格を作る「花壇の基本構成（フォーマル or ナチュラル、配置等）」を決めます。

#### デザイン

花壇のどこに何を植えるかを決めていきます。宿根草は地上部が枯れる期間があるので、花のある時期・枯れる時期を季節で分けて考えると、1・2年草、常緑、宿根草のバランスがとりやすいです。また、植える植物の花期を一覧表にすると、植える花を選ぶ際に役立ちます。



▲春のイメージ



▲夏のイメージ



▲秋のイメージ



▲冬のイメージ

#### 数量や費用の算出

大規模な花壇を作る場合は、全体の苗の数や肥料の量を計算し、全体の費用を算出します。苗が流通しているかも確認します。

#### 施工・設置

購入した苗の大きさを見ながら、配置を調整して植え付けます。

#### 管理

水やり、施肥、花がら摘みなど、植物を観察しながら管理します。

高さ	樹種名	花 期											
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
高(1.0m~)	マホニア・コンファーサ												
	シルバープリペット												
	ニューサイラン(銅葉)												
	ギョリュウバイ												
中(0.5m~)	コムラサキシキブ												
	ラベンダーセージ												
	ヤナギバヒマワリ												
	アガパンサス												
低(~0.5m)	シュウメイギク												
	ツツキ												
	オステオスペルマム												
	カレックス												
	フィリヤブラン												
	スイセン												
一年草、球根	タイム・ロンギカウリス												
コンテナ植替え	パンジー、デイズー												
	ペチュニア、アケラタム												
	キハナコスモス、シロア												

▲花期一覧表



## 腐葉土の作り方講習

公園内では冬場、沢山の落葉が出るので、それを使って腐葉土の作成を行いました。腐葉土とは改良用土の一種で、通気性、水持ち、保肥性に優れた植物性堆肥です。赤玉土等の基本用土に腐葉土とパーライト（通気性）などの改良土で調整し、元肥を混ぜて使用します。

### ◆準備物◆

- ・落葉（広葉樹）
- ・有機肥料（今回は発酵鶏糞を仕様）
- ・ト口箱
- ・ジョウロ、水
- ・ビニールシート、重石（被覆用）



**1** 広葉樹の落ち葉を使用します。枝や花がらが混ざっていると出来上がるのに時間がかかります。また、水分や油分が多い葉も腐葉土づくりには適さないのを避けます。

適している葉：クヌギ、ナラ、ケヤキ、ポプラ

適さない葉：サクラ、カキ、イチョウ、モチ、クス、針葉樹



**2** 落葉を敷き均した上に有機肥料を被せます。今回は発酵鶏糞を使用しましたが、有機物であれば牛糞や米ぬかでも構いません。生ごみを入れてもよいですが、虫が湧きやすくなるので嫌な人は避けましょう。落葉と有機肥料は7：3程度の比率になるようにします。



**3** 落葉と有機肥料の接地面から発酵が進むので、ト口箱の端まで有機肥料を敷き詰めます。今回はト口箱を使用しましたが、地面に穴を掘って入れたり、ビニール袋やコンポストなど（風雨を防げるもの）使うこともできます。その際も、できるだけ落葉と有機肥料の接地面が多くなるように均します。



**4** 3の上から水をかけます。全体的に湿り、落ち葉を強く握って水が染み出るくらいの量を目安とします。

腐葉土は微生物の働きで出来ますが、微生物が活動しやすい環境を保つためには、空気と水分が必要です。



**5** 4の上に更に落ち葉を敷き詰め、サンドイッチ状に重ねていきます。2～5作業を何層も繰り返し、最後に雨除けのシートと重石を載せます。月に1回程度の頻度でかき混ぜ、新鮮な空気を送り込んで発酵を促します。季節にもよりますが、早ければ3か月で腐葉土が出来上がります。



## ハーバリウムづくり

ハーバリウムとは植物標本のことで、植物をオイルに漬けて研究用に保存するものだったのですが、ここ2、3年で鑑賞用の雑貨として人気が出ています。今回は、公園内の植物等を使って、冬の間も花修景が楽しめるよう、様々なハーバリウムを作成しました。作成したハーバリウムはクリスマスウィークにライトアップして展示しました。

### ◆準備物◆

- ・花材（ドライフラワー）
- ・ミネラルオイル（流動パラフィン）
- ・ハサミ
- ・ピンセット、竹串
- ・ガラス瓶



**1** 瓶の大きさに合わせて、デザインを考えます。使いたい花材を選び、ハサミで切ったりして配置や大きさを調整します。今回使用した花材は全てドライフラワーですが、プリザーブドフラワーやドライフルーツ、鳥の羽なども使用することが出来ます。全ての材料がしっかりと乾燥していることを確認します。



**2** ピンセットを使って、瓶の中に下から順に花材を入れます。ドライフラワーは出し入れすると崩れやすいので、一度瓶に入れたものは、取り出さないようにします。瓶の中で花を花材をまとめた場合は、接着剤やリボンで束ねた状態で入れます。



**3** オイルを瓶に注ぎます。このオイルは流動パラフィンといって、化粧品などによく使われ、引火点温度が高いものを使用しています。しかし油なので、火気の近くで作業したり、置いたりするのは止めましょう。



**4** オイルを注いだ衝撃で動いた花材の位置を竹串で調整します。オイルを入れた直後は気泡が出たり、花材がオイルを吸って量が減るので、5分ほど置いてから蓋を閉めます。瓶や手についたオイルはアルコールを使うときれいに拭き取れます。